

福岡大学 医学会ニュース

No. 56

福岡大学医学会 福岡大学医学部内

学部長就任にあたって



福岡大学医学部長
黒木 政秀

昨年十二月に医学部長を拝命し、多くの難題を抱えて責任の重さに身を引き締めています。まもなく創立後三十六年目に入る医学部では、とくに四年前から新臨床研修制度が始まり、初期研修医とともに研修後の医師を如何に確保できるか、今や医学部・大学病院の存亡をかけた戦いになっています。一方、昨年度に開設されたばかりの看護学科にも、新たに乗り越

福岡大学病院の課題と今後の展望



福岡大学病院院長
内藤 正俊

福岡大学医学部の第一卒業式は丁度三十年前の一九七八年三月に行われ、現在まで優に三、〇〇〇名を超える医師が誕生しました。医学部卒を見出すのが稀でなくなり、頼が緩む日が多

筑紫病院長就任にあたって



福岡大学筑紫病院長
岩下 明徳

私が福岡大学筑紫病院に奉職して約二十年が経過しました。開院当初から比べ、紫病院の職員数も約五二〇人を数える大きな組織に様変わりしています。昨年十二月にそのような大きな組

医学科で、まず取り組むべき課題は教育体制の整備です。これまでモデル・コア・カリキュラムやPBL、テュートリアル、講義の改善をめざしたFD、臨床実習開始前の評価法であるCBTやOSCEに加え、クリニカル・クラッシュ方式のBSLなど、世の流れに即した方策を導入してきました。ただ、教職員の労力が増える割には具体的な成果が不透明で、本大学病院での初期研修希望者も激減しています。諸々の施策に携わった者の一人として自戒を含め、新たな有効策を模索していきます。一時的に国試予備校などの教育

力に頼るのも止むを得ませんが、長期的には内部の教育力充実で国試合格率を上げない限り、本医学部自体の存在意義が問われ、卒業生への魅力も維持できません。講義やPBLの方法・内容の工夫改善、診療体制と教育体制の整合化、意識改革を伴うBSLの改善、担任制の実動による学生・教員間の交流活性化、同窓会メンバーの協力による国試対策小委員会の強化などで実効を上げたいと思います。次に、研究体制の強化も大きな課題で、医学研究科長を中心とし、各総合研究室の充実と合理化、各講座・総合研究室の施設・機

器および指導力の開放、科研費・学術研究高度化推進事業・グローバルCOEプログラムなど競争的資金の獲得をめざした基礎と臨床の研究協力体制整備、インセンティブ予算の傾斜配分基準の見直しと再活用などに取り組みたいと思います。一方、看護学科では、専門性の高い看護専門職者の育成、とくに実践能力を備えた看護士の養成が求められています。具体的な取組などについては、学科主任の寺崎教授がすでに本紙二〇〇七年第五十四号で紹介されていますので省略しますが、今や全国で一五八にも及ぶ四年制の看護学部・

業別の医療連携体制の整備が計画されています。当院には第三次医療機関としての地域医療連携体制の中心的役割がありますので、城南区を中心に西区、早良区の主だった第二次医療機関と医療情報とともに人的交流も視野に入れた総合的な医療連携体制の構築を考えています。病院の運営や管理については限られた医療資源を計画的かつ有効的に活用することが不可欠です。近年、「選択と集中」という言葉

からの認知度は不動のものになり、経営の健全化を図るために重要な要素である患者数の増加など、外的要因は申し分のない状況になってきたと言えます。筑紫病院へ吹く風を感じながら職員全員が鋭意努力していく所存ですが、我々の前に立ちはだかる大きな壁もあります。それは、病院の建物そのものに起因するものです。もともと個人病院を買収した病院であり、大学病院としての機能を果たすためには脆弱な建物です。新病院の建設は筑紫に引き出されたと感じています。福岡大学の使命である、教

育・研究・医療の一端を担う一部門として、大きな役割を持つことを十分認識しながら、おこなうことなく、筑紫病院の理念を逸脱することなく、あたかも医療を原点として大学病院としてより質の高い医療を提供していくべき役割を果すことに全スタッフと共に真摯に取り組んでいく所存です。重ねてご理解と協力をよろしくお願い申し上げます。

あり、PDCAサイクルを忘れずに進めます。「PDCA」とはPlan、Do、Check、Actionの四つのプロセスの頭文字ですが、健全かつ効率的な運営にはこのPDCAサイクルを回すことが役立ちます。人的、物的に高価な医療資源を投入した事業には特にCheckとActionが必要であり、必ず見直しカイゼンすべき点があれば直ちに行動することが大切であるとと考えています。



第34回 医学部慰霊祭

新 風

平成19年10月1日付けで本学へ赴任、または昇格された方に自己紹介をしていただきました。

筑紫病院小児科教授

小川 厚



蛋白の研究を行わせて頂きました。その後、リサーチを臨床神経生理学に変え、交感神経皮膚反応(Sympathetic Skin Response: SSR)の小児における正常値や異常症例の検討を行いました。このSSRを用いて自律神経機能の年齢依存性変容の検討を行い、二〇〇〇年の日本臨床神経生理学会のシンポジストを勤めさせていただきました。最近では広汎性発達障害、注意欠陥/多動障害、子どもの心の問題などの研究にも興味を持っており

ます。臨実実績ですが、新生児・小児神経学を専門領域として診療を行って参りました。平成五年から二年間福岡大学病院救命救急センター専任スタッフ(助手)として小児のみならず、成人の救急救命患者の診療に参加しました。平成十五年、大川

のときの私の指導医は白目高歩講師(現呼吸器・乳腺内分泌・小児外科教授)でありました。翌年、故三戸康夫助教授の食道疾患グループに配属され周術期管理の日々を過ごしました。その後北九州

に引き続き、福岡大学病院に勤務することになりました。平成十六年九月には、福岡大学病院NST室長を拝命しました。平成十八年十月に大

学で臓器別再編に伴い福岡大学病院消化器外科講師へ移動し、そして平成十九年十月一日付けで福岡大学筑紫病院外科に着任いたしました。さて福岡大学筑紫病院は大病

院として日本でも唯一の地域医療支援病院であり救急告知病院であります。私も外科医にとりましては臨床外科実践病院であります。私は、外科医の育成のため臨床研修医

の指導、術者教育と消化器外科専門医育成に尽力し、さらにより高い外科診療レベルを追究し、地域医療に貢献できる臨床外科教室を目指したいと思

います。会員の先生方には今後とも何卒宜しくご指導ご鞭撻いただきたく思

筑紫病院外科教授

前川 隆文



平成十九年十月一日付で馬純孝前教授の後任として福岡大学筑紫病院外科の教授を拝命いたしました。前川隆文でございます。この度は栄えある福岡大学医学会ニュー

スに自己紹介の機会を与えていただき誠にありがとうございます。私は佐世保市の出身で昭和四十八年四月に福岡大学医学部に入

学、昭和五十四年三月に二回生として卒業し、同年の六月に福岡大学病院第二外科(故犬塚貞光教授)に臨床研修医

として入局いたしました。このとき私の指導医は白目高歩講師(現呼吸器・乳腺内分泌・小児外科教授)でありました。翌年、故三戸康夫助教授の食道疾患グループに配属され

周術期管理の日々を過ごしました。その後北九州に引き続き、福岡大学病院に勤務することになりました。平成十六年九月には、福岡大学病院NST室長を拝命しました。平成十八年十月に大

学で臓器別再編に伴い福岡大学病院消化器外科講師へ移動し、そして平成十九年十月一日付けで福岡大学筑紫病院外科に着任いたしました。さて福岡大学筑紫病院は大病

平成十九年十月一日より福岡大学筑紫病院小児科の診療部長・教授を拝命いたしました。自己紹介をもって就任挨拶とさせていただきます。

一九五八年、大分県佐伯市生まれです。産婦人科開業医である父の影響を受け医師を志し、一九七八年福大医学部に入

学。一九八三年卒業、すぐに母校の小児科に入局しました。母の病気で小児科に入局し

た。研究歴ですが、入局八年度に研究のチャンスが巡ってきて、カリフォルニア大学サンフランシスコ校へ一年三ヶ月留学し

肺サーファクタントアポ

タンパクの研究を行わせて頂きました。その後、リサーチを臨床神経生理学に変え、交感神経皮膚反応(Sympathetic Skin Response: SSR)の小児における正常値や異常症例の検討を行いました。このSSRを用いて自律神経機能の年齢依存性変容の検討を行い、二〇〇〇年の日本臨床神経生理学会のシンポジストを勤めさせていただきました。最近では広汎性発達障害、注意欠陥/多動障害、子どもの心の問題などの研究にも興味を持っており

ます。臨実実績ですが、新生児・小児神経学を専門領域として診療を行って参りました。平成五年から二年間福岡大学病院救命救急センター専任スタッフ(助手)として小児のみならず、成人の救急救命患者の診療に参加しました。平成十五年、大川

のときの私の指導医は白目高歩講師(現呼吸器・乳腺内分泌・小児外科教授)でありました。翌年、故三戸康夫助教授の食道疾患グループに配属され周術期管理の日々を過ごしました。その後北九州

に引き続き、福岡大学病院に勤務することになりました。平成十六年九月には、福岡大学病院NST室長を拝命しました。平成十八年十月に大

学で臓器別再編に伴い福岡大学病院消化器外科講師へ移動し、そして平成十九年十月一日付けで福岡大学筑紫病院外科に着任いたしました。さて福岡大学筑紫病院は大病

院として日本でも唯一の地域医療支援病院であり救急告知病院であります。私も外科医にとりましては臨床外科実践病院であります。私は、外科医の育成のため臨床研修医

の指導、術者教育と消化器外科専門医育成に尽力し、さらにより高い外科診療レベルを追究し、地域医療に貢献できる臨床外科教室を目指したいと思

います。会員の先生方には今後とも何卒宜しくご指導ご鞭撻いただきたく思

います。この度は栄えある福岡大学医学会ニュースに自己紹介の機会を与えていただき誠にありがとうございます。私は佐世保市の出身で昭和四十八年四月に福岡大学医学部に入

学、昭和五十四年三月に二回生として卒業し、同年の六月に福岡大学病院第二外科(故犬塚貞光教授)に臨床研修医として入局いたしました。

このとき私の指導医は白目高歩講師(現呼吸器・乳腺内分泌・小児外科教授)でありました。翌年、故三戸康夫助教授の食道疾患グループに配属され周術期管理の日々を過ごしました。その後北九州

に引き続き、福岡大学病院に勤務することになりました。平成十六年九月には、福岡大学病院NST室長を拝命しました。平成十八年十月に大

学で臓器別再編に伴い福岡大学病院消化器外科講師へ移動し、そして平成十九年十月一日付けで福岡大学筑紫病院外科に着任いたしました。さて福岡大学筑紫病院は大病

院として日本でも唯一の地域医療支援病院であり救急告知病院であります。私も外科医にとりましては臨床外科実践病院であります。私は、外科医の育成のため臨床研修医

の指導、術者教育と消化器外科専門医育成に尽力し、さらにより高い外科診療レベルを追究し、地域医療に貢献できる臨床外科教室を目指したいと思

います。会員の先生方には今後とも何卒宜しくご指導ご鞭撻いただきたく思

います。この度は栄えある福岡大学医学会ニュースに自己紹介の機会を与えていただき誠にありがとうございます。私は佐世保市の出身で昭和四十八年四月に福岡大学医学部に入

学、昭和五十四年三月に二回生として卒業し、同年の六月に福岡大学病院第二外科(故犬塚貞光教授)に臨床研修医として入局いたしました。

このとき私の指導医は白目高歩講師(現呼吸器・乳腺内分泌・小児外科教授)でありました。翌年、故三戸康夫助教授の食道疾患グループに配属され周術期管理の日々を過ごしました。その後北九州

に引き続き、福岡大学病院に勤務することになりました。平成十六年九月には、福岡大学病院NST室長を拝命しました。平成十八年十月に大

学で臓器別再編に伴い福岡大学病院消化器外科講師へ移動し、そして平成十九年十月一日付けで福岡大学筑紫病院外科に着任いたしました。さて福岡大学筑紫病院は大病

院として日本でも唯一の地域医療支援病院であり救急告知病院であります。私も外科医にとりましては臨床外科実践病院であります。私は、外科医の育成のため臨床研修医



呼吸器内科学准教授

藤田 昌樹



を冷まさないようについでいきたいと思

います。講義スケジュール、内容にも驚かされおり、鼻を木でくくったような講義スライドをもう一度見直す必要に迫られています。

呼吸器内科学講座は小人数講座で臨床に手一杯の状況ですが、今後研究も

目指してまいります。総研という非常に合理的なシステムが運営されている事に驚き、このシステムを

利用して何とか研究を立ち上げようと思

っています。現在、早良区の海岸付近の自宅から病院までド

ライプ気分通勤しています。まだ秋、冬の油山を見ながらの渋滞のな

い運転は気持ち良いものです。春、夏はどんな油山を見せられるのか、

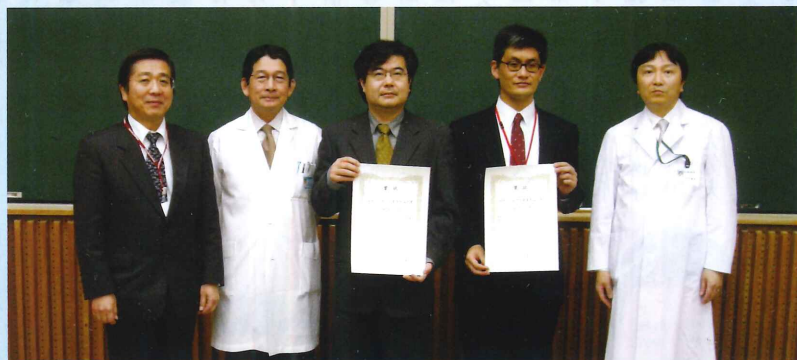
楽しみにしています。臨床、教育、研究とも、気持ちよく、ストレスなく行っていきたいというのが現在の抱負です。今後とも末永くよろしくお願い申し上げます。

第57回 福岡大学医学会例会報告

日時／平成20年3月5日(水) 17:00~18:50
場所／医学部臨床大講堂

【進行】集会幹事 岩本 隆宏

- I. 開会の辞 集会幹事 岩本 隆宏
- II. 会長挨拶 医学部長 黒木 政秀
- III. 講演 座長……黒木 政秀
講演1 渡辺 憲太郎 (呼吸器内科学教授)
「間質性肺炎」
講演2 大慈 弥 裕之 (形成外科学教授)
「再建外科の進歩—マイクロサージャリーと小児形成外科—」
- IV. 福岡大学医学紀要第34巻優秀論文賞授与式
受賞者 谷原 真一 (衛生学)
岩橋 英彦 (心臓血管外科)
- V. 受賞論文の要旨講演
講演1 講演者…谷原 真一 座長…畠 博
「Sensitivity and Specificity Analysis of Hepatic Enzyme Blood Tests for the Diagnosis of Nonalcoholic Fatty Liver」
講演2 講演者…岩橋 英彦 座長…田代 忠
「Clinical Utility of Highly Sensitive Measurement of the PIVKA-II in Anticoagulant Therapy Patients Treated with Warfarin」
- VI. 閉会の辞 集会幹事 岩本 隆宏



「優秀論文賞受賞者岩橋氏(左から3番目)、谷原氏(左から4番目)を囲んで」

学位取得

次の方は、平成19年10月2日付けで福岡大学より医学博士を授与されました。

論文提出による学位取得者

馬場 康彦 (神経内科・健康管理科 助教)

Alterations of T-lymphocyte populations in Parkinson disease

堤 正則 (筑紫病院脳神経外科 助教)

Stent fracture in revascularization for symptomatic ostial vertebral artery stenosis

松尾 佳野 (心臓・血管内科学 教育技術職員)

Newly developed reconstituted high-density lipoprotein containing sphingosine-1-phosphate induces endothelial tube formation.

木村 史郎 (学外者)

Analysis of the origin of the right inferior phrenic artery in 178 patients with hepatocellular carcinoma treated by chemoembolization via the right inferior phrenic artery

鈴木 聖子 (学外者)

Detecting Breast Cancer with Non-contrast MR Imaging : Combining Diffusion-weighted and STIR imaging

西尾 健 (学外者)

Effect of inhaled steroid therapy on exhaled nitric oxide and bronchial responsiveness in children with asthma

貞森 理子 (学外者)

The Sonohysterographic Difference in Submucosal Uterine Fibroids and Endometrial Polyps Treated by Hysteroscopic Surgery

教室紹介

呼吸器内科学

断手技を提供していきたくと考えています。

時無呼吸症候群の研究によりアジア太平洋呼吸器学会(APS R)よりTravel awardを受賞、平成十九年十一月には藤田が日本感染症学会西日本地方会感染症優秀論文賞を受賞するなど、内外の学会からも評価されています。

富な臨床修練ができる環境です。もちろん研究も可能ですし、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医、日本感染症学会専門医などの専門医も取得可能です。呼吸器内科医を目指す方々には、うつつけの環境を提供できると自負しています。

講座内容は、H D (http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/respiratory/)にも紹介していますのでご覧ください。福岡大学病院のみならず、地域医療にこれまで以上に貢献できる新しい呼吸器内科学を目指して一層の精進を続けて参ります。

平成十九年四月より、福岡大学医学部の改組により呼吸器内科学講座が新設されました。以前より診療科として機能していましたが、渡辺憲太郎教授の下、臨床、教育、研究に、独立講座として取り組んでいます。呼吸器内科の病床数は、二十八床、この一年間の平均入院患者数二七・八名、年間入院患者数約四五〇名です。肺癌、間質性疾患、閉塞性肺疾患、肺炎をはじめとする呼吸器感染症、睡眠時無呼吸症

候群などを中心に診療にあたっています。呼吸器外科と同一病棟で勤務しており、外科との連携がうまく取れています。また、当大学は肺移植認定施設という点もあり、呼吸器外科とともに肺移植に取り組み、九州一円からの紹介患者に対処しています。近郊の開業医の先生がたとえ、早良区城南区胸部画像勉強会を主催し、病診連携を緊密に図っています。今後は、超音波気管支内視鏡、内科的胸腔鏡を中心に新規検査も導入していき、高度な診

断手技を提供していきたくと考えています。時無呼吸症候群の研究によりアジア太平洋呼吸器学会(APS R)よりTravel awardを受賞、平成十九年十一月には藤田が日本感染症学会西日本地方会感染症優秀論文賞を受賞するなど、内外の学会からも評価されています。

富な臨床修練ができる環境です。もちろん研究も可能ですし、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医、日本感染症学会専門医などの専門医も取得可能です。呼吸器内科医を目指す方々には、うつつけの環境を提供できると自負しています。

講座内容は、H D (http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/respiratory/)にも紹介していますのでご覧ください。福岡大学病院のみならず、地域医療にこれまで以上に貢献できる新しい呼吸器内科学を目指して一層の精進を続けて参ります。

『第10回福岡大学医学会賞』論文募集

1. 賞の目的

福岡大学医学部、病院および筑紫病院の研究活動を促進することを目的とする。

2. 対象

対象とする論文は、福岡大学医学部、病院および筑紫病院の研究活動にて作成され、平成19年1月から平成19年12月に発表されたものとする。論文の筆頭著者は本学会会員で、論文発表時に年齢が40歳未満の者とする。但し、福岡大学医学紀要に掲載されたものは除く。

3. 応募方法

医学部各教室、病院および筑紫病院各部門からの推薦論文を2編以内(1人1編)を目安としてとりまとめ提出する(別刷各3部を添付)。

4. 応募締切 平成20年6月9日(月)

5. 提出先 福岡大学医学会担当 大山

(福岡大学医学部内 TEL 801-1011 内線3023)

6. 選考方法

- 1) 応募された論文別刷を医学会評議員に回覧して、7~8月に開催予定の評議員会において3編以内を選出する。
- 2) 選出された論文の著者は、9~10月に開催される福岡大学医学会例会の席で各15分間の講演を行う。
- 3) 各講演を聴取した後に評議員および聴衆が投票を行う。但し、評議員の1票は聴衆の5票に該当する。
- 4) 投票の結果により金賞1名以内銀賞2名以内を決定し、医学部長が受賞者の表彰を行う。
- 5) 審査の結果は福岡大学医学会ニュースにて公示する。

7. 副賞

金賞は10万円、銀賞は5万円とする。